

2025 年 10 月 15 日
BBSS 株式会社

8 月度ネット詐欺レポート TEPCO のフィッシングサイトが急増、前月比 4.7 倍増 マネックス証券のフィッシングにも注意

ネット詐欺レポートは毎月調査・収集した詐欺サイトを分析し、傾向をまとめたレポートです。

目次：

- TEPCO のフィッシングサイトが急増
- マネックス証券のフィッシングサイト
 - ・フィッシングサイトブランドランキング
 - ・フィッシングサイトカテゴリ別構成比
 - ・フィッシング詐欺被害防止のポイント
- ・森 達哉教授のコメント

■TEPCO のフィッシングサイトが急増

東京電力（TEPCO）を騙るフィッシングサイトが急増し、前月比で 4.7 倍となりました。メールや SMS など「支払いの確認」や「未払い」を装いフィッシングサイトへ誘導する手口です。今年の 8 月は記録的猛暑でエアコン利用が不可欠となった時期であり、利用者の不安心理を突いた詐欺の可能性もあります。他の電力会社を装ったフィッシングサイトは確認されませんでしたが、利用者の多いインフラサービスでもあることから、引き続き警戒が必要です。

※1 出典：東京電力エナジーパートナー [東京電力（TEPCO）を装った SMS フィッシング詐欺※に ご注意ください！](#)



請求照会

以下に電話番号を入力して請求書をご確認ください。

電話番号

請求書を受け取る

TEPCO のフィッシングサイト

※画像はフィッシング詐欺サイトのイメージであり、本文内容とは関係ありません。

■マネックス証券のフィッシングサイト

証券会社を装うフィッシングサイトは依然として高水準で推移しています。

SBI 証券：今まで多かった報告数は減少傾向にあり、8 月は前月に比べ半減、9 月も大きく減少

マネックス証券：8 月に増加

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券：9 月に急増

上記のようにターゲットを切り替えているような動きも見られます。数多くのブランドの証券系フィッシングサイトが作られている中でどのブランドが増加するかは予測することが困難なため、証券系のサービスを利用されている方は特に注意が必要です。



マネックス証券のフィッシングサイト

三菱UFJ・モルガンスタンレー証券のフィッシングサイト

※画像はフィッシング詐欺サイトのイメージであり、本文内容とは関係ありません。

■フィッシングサイトブランドランキング

8 月度は TEPCO のフィッシングサイトが 1 位となっています。8 位の ETC 利用照会サービスは前月比約 7 倍増加しており、夏休み需要を狙った可能性もあります。またランキング外ではありますが、国税庁のフィッシングサイトも増加傾向にあります。来年の確定申告シーズンに向けたばらまきの可能性があるため注意が必要です。

	2025年7月	割合	2025年8月	割合
1	SBI証券	37.16%	TEPCO	14.33%
2	Apple	12.39%	SBI証券	14.19%
3	JAバンク	5.18%	Apple	12.34%
4	野村證券	4.81%	マネックス証券	7.24%
5	Amazon	3.67%	三井住友カード	4.64%
6	三井住友カード	3.22%	JAバンク	4.54%
7	TEPCO	3.12%	Amazon	3.68%
8	JCB	3.04%	ETC利用照会サービス	3.52%
9	NTT docomo	2.95%	JCB	3.13%
10	大和証券	2.42%	ヤマト運輸	2.71%

■フィッシングサイトカテゴリ別構成比

SBI 証券の報告数が減ったことにより、「株／証券」のカテゴリが減少しました。また TEPCO、ETC 利用照会サービスが増加したことで「Web サービス」のフィッシングサイトが増加しています。

	2025年7月	2025年8月	
 銀行	9.52%	6.24%	
 携帯キャリア	2.63%	1.68%	
 クラウドサービス	0.00%	0.00%	
 消費者金融キャッシング	0.00%	0.65%	
 クレジットカード	15.10%	16.37%	
 ECサイト	4.74%	5.05%	
 ポータルサイト	0.05%	0.01%	
 プロバイダー	1.41%	1.63%	
	2025年7月	2025年8月	
 官公庁	2.66%	3.10%	
 株 / 証券	42.46%	25.45%	
 SNS	0.14%	0.04%	
 仮想通貨	0.08%	0.05%	
 Webメール	0.00%	0.00%	
 Webメールユーザー	0.00%	0.00%	
 Webサービス	20.93%	35.71%	
その他	0.28%	4.02%	

※5 ポイント以上上昇したカテゴリは赤色の矢印になります。

※5 ポイント以上減少したカテゴリは黄色の矢印になります。

■フィッシング詐欺被害防止のポイント

1. メールや SMS で案内された URL が正規の URL か確認する
メールや SMS メッセージ上のリンクはクリックせず、事前に登録しておいたブックマークやウェブ検索で正規サイトへアクセスする。または、怪しいサイトを診断する無料サービスを利用し事前に URL をチェックする
2. 個人情報やクレジットカード番号の入力を促すメール・SMS に注意する

クレジットカード会社などでは、個人情報やクレジットカード情報などについてメール・SMS での問い合わせは行っていないため、情報入力させるページに誘導するメールには細心の注意を払いましょう。

3. ログイン ID・パスワードの使い回しを控える

複数のサービスサイトで同じログイン ID・パスワードを使い回していると、フィッシング詐欺によってログイン ID・パスワードが詐取された場合、他のサービスサイトの不正利用被害に遭う可能性が高まります。被害を最小限に抑えるためにもログイン ID・パスワードの使い回しはせず、サービスごとに登録内容を変更し管理を行うようにしましょう。

4. セキュリティソフトやネット詐欺専用ソフトを導入する

犯罪者の手口は日々巧妙化しており、今まで意識してきた対策が通用しなくなる可能性があります。日々進化するネット犯罪に対抗するにはセキュリティソフトを導入することも必要です。不審なサイトにアクセスした際に注意喚起を行ってくれます。

■森 達哉教授のコメント

8 月度のネット詐欺レポートでは、東京電力（TEPCO）を装うフィッシングサイトの急増が大きな特徴として浮かび上がりました。前月比で約 4.7 倍という増加は、厳しい「酷暑」による電力需要の高まりと「未払い」、「支払い確認」といった生活に直結する利用者の心理的隙を巧みに突いた攻撃であることを反映しています。これまで証券や銀行といった金融系が主要ターゲットでしたが、今回のようにインフラサービスが狙われることで、被害の裾野がさらに広がる危険性があります。今月特徴的であった電力や交通（ETC 利用照会サービスの急増）といった社会基盤に関わる領域は利用者数が多いため、攻撃が成功した際の影響も甚大となります。証券系の動きについては、SBI 証券の報告数が減少した一方で、マネックス証券や三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券が新たに標的となるなど、7 月にも見られた証券会社間のターゲットローテーションが継続しています。今後もどのブランドが標的となるかは予測困難であり、どの証券会社も狙われる得ることを念頭に警戒することが必要です。さらに国税庁のフィッシングサイトの増加も見逃せません。確定申告シーズンを見越して早期にばらまき始めることで、シーズン本番に利用者を混乱させる狙いが推測されます。攻撃者が「季節性」や「生活イベント」を意識して計画的に詐欺を仕掛けている点は、従来より一歩進んだ傾向と言えるでしょう。

生活に密着したインフラや行政サービスを標的とする詐欺は、利用者にとって「自分には関係ない」と切り離すことが難しい領域です。正しい知識を持ち、冷静に「本当に正規の案内か」を見極める姿勢がますます重要になっています。本レポートで得た知識を家族や周囲に広めていただくことも有効な対策となります。

■監修者プロフィール

森 達哉

早稲田大学 理工学術院 教授

「令和 7 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）」受賞

NICT サイバーセキュリティ研究所 招へい専門員

<会社概要>

社名：BBSS 株式会社

所在地：東京都港区海岸 1 丁目 7 番 1 号 WeWork 東京ポートシティ竹芝

代表者：代表取締役社長 兼 CEO 本多 晋弥

設立日：2006 年 1 月 17 日

株主：SB C&S 株式会社 100%

事業内容：コンシューマ向けソフトウェア、および IoT サービスの企画・開発・提供、法人向けライセンス販売

URL：<https://www.bbss.co.jp/>